

## 1. 略歴

- 1980年3月 東京大学文学部言語学科卒業（文学士）  
1982年3月 東京大学大学院人文科学研究科言語学専攻修士課程修了（文学修士）  
1984年9月～1986年10月 韓国ソウル大学校人文大学国語国文学科に留学  
1987年3月 東京大学大学院人文科学研究科言語学専攻博士課程単位取得退学  
1987年4月～1989年3月 東京大学文学部助手（言語学研究室）  
1989年4月～1992年9月 明海大学外国語学部講師（日本語学科）  
1992年10月～1997年3月 東京大学教養学部助教授  
1994年10月 東京大学文学部附属文化交流研究施設助教授（併任）  
1997年4月 東京大学文学部附属文化交流研究施設に配置換  
1998年4月 東京大学大学院人文社会系研究科附属文化交流研究施設に配置換  
2002年4月 東京大学大学院人文社会系研究科に配置換

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野 b 研究課題

専攻分野は韓国語学であるが、言語学（音声学・音韻論）、日本語学（方言研究）にも関心をもっている。韓国語学の中では、中世語を中心として、古代語や近代語についても音声や方言研究などを行ってきた。

2003年、2007年に小倉文庫目録を作成したが、2011年度には小倉文庫の特徴についてまとめるとともに、目録の韓国語版を作成し、ソウル大学奎章閣韓国学研究院の『奎章閣』誌に発表した。また、小倉文庫の中で対馬出身の通詞として明治初期に活動した中村庄次郎の寄贈資料についての研究を継続して行っており、『酉年工夫』という、雨森芳洲が編纂したと推定できる資料が18世紀初頭の韓国語を知るうえでも重要であることを指摘して、何度か研究発表を行い、論文にまとめた。他の中村庄次郎関連資料についても研究を進めている。

また、ここ数年、世宗実録に掲載されている「致和平」という楽譜の歌詞として用いられている龍飛御天歌の声調（アクセント）が、旋律に反映されていることを報告し、中世語の声調ないしアクセント研究の音声の実態を知るための新しい重要な資料になりうることを論じてきたが、その成果を韓国の国語学会から出ている『国語学』誌などに発表した。その他に、『捷解新語』の音注における語頭の清濁の書き分けに当時の日本語のアクセントが関わっていることを論じる研究発表を行い、また、韓国の訓民正音学会主催のSCRIPTA2011において東国正韻と中世韓国語の音韻体系の間の関係を論じる研究発表を行い、その成果を論文にまとめた（近刊予定）。さらに、筆者がこれまでにやってきた韓国語の音韻史にかかわる研究をまとめて単行本として出版する準備を進めている。

### c 主要業績

#### (1) 論文

- 福井玲、「致和平譜に反映した中世語声調について」、『国語学』、57、107-130頁、2010.5  
福井玲、「小倉文庫の特徴について——中世語資料と対馬関連資料を中心に——」、『奎章閣』、39、241-376頁、2011.12  
福井玲、「中村庄次郎筆写本『酉年工夫』の語学的特徴」、『韓国朝鮮文化研究』、11、1-20頁、2012.3

#### (2) 学会発表

- 国内、福井玲、「15世紀の楽譜「致和平譜」に反映された韓国語のアクセント」、国立国語研究所共同研究プロジェクト、青山学院大学、2010.3.8  
国内、福井玲、「捷解新語の音注とテキスト分析」、朝鮮語史研究会、東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所、2010.12.8  
国際、福井玲、「Tongguk chongun and the phonological system of Middle Korean」、Scripta 2011, Writings and Cognition, Seoul National University、2011.10.8

## 3. 主な社会活動

### (1) 学会

- 朝鮮語研究会幹事 2010年度～  
日本音声学会会計監査委員 2011年度～

(2) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

国立国語研究所研究員